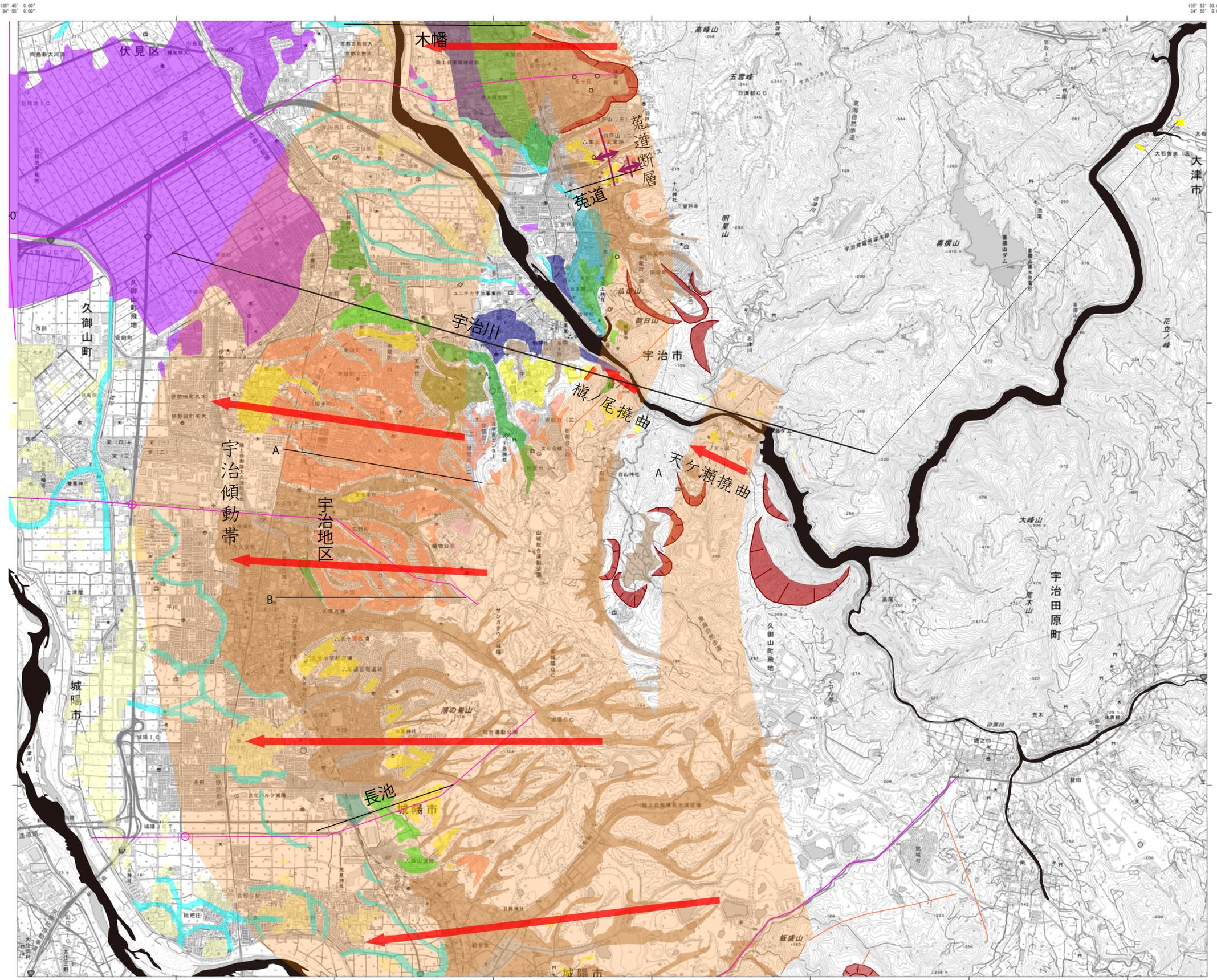


- 活構造凡例**
- 活断層(地表に破断変形生じる可能性大)
  - 伏在活断層(変位基準なし・地表に破断変形生じる可能性大)
  - 推定活断層(第四紀後期の活動未確定・地表に破断変形生じる可能性あり)
  - 活背斜(地表に背斜(引張)変形生じる可能性大)
  - 活向斜(地表に向斜(圧縮)変形生じる可能性大)
  - 活撓曲(幅数10m~数100mの傾動が生じる可能性大)
  - 伏在活撓曲(変位基準なし・幅数10m~数100mの傾動が生じる可能性大)
  - 推定活撓曲(第四紀後期の活動未確定・幅数10~数100mの傾動が生じる可能性あり)
  - 傾動帯(幅数100m以上の傾動変形生じる可能性大)
  - 傾動方向(矢の方向に傾き下がる)
  - リニアメント・古期断層(地表に断層変位をもたらす可能性低い)

- 調査項目凡例**
- 地形断面位置
  - 反射法地震探査測線
  - ☆:断層
  - :傾斜変換点
  - :トレンチ調査地点
  - :調査ボーリング地点重要露頭

- 地形凡例**
- 1930~40年代の水部(ため池など・その後埋め立てられたもの・現水部を含む)
  - 旧河道(埋め立てられた川の跡)
  - 自然堤防および破堤地形(堆積)(洪水時に土砂が堆積した微高地)
  - 天井川(歴史時代に形成された周囲より河床が高い川)
  - 緩斜面(土石流堆積物などが堆積して作られた斜面)
  - 低位5面(完新世後期=数千年前以降にできた段丘)
  - 低位4面(完新世=約1万年前以降にできた段丘)
  - 低位3面(更新性末期=約1.5万年前ごろにできた段丘)
  - 低位2面(後期更新世後期=約2万年前ごろにできた段丘)
  - 低位1面(後期更新世中期=約4万年前ごろにできた段丘)
  - 中位2面(後期更新世前期=約8万年前ごろにできた段丘)
  - 中位1面(後期更新世初頭=約10~12万年前にできた段丘)
  - 高位2面(中期更新世後期=約20万年前ごろにできた段丘)
  - 高位1面(中期更新世・数10万年前にできた段丘)
  - 地すべり地形(過去の地すべりによって作られた斜面)



**記号**

△44 電子基準点	△141 特別標高点
△524 三角点	△125 標高点
○217 水準点	○ 市役所
○ 町役場	○ 神社
○ 公署	○ 煙突
○ 裁判所	○ 風車
○ 消防署	○ 海岸・ガス井
○ 警察署	○ 坑口
○ 聖賢舎	○ 温泉
○ 郵便局	○ 噴気口・噴気口
○ 小・中学校	○ 城跡
○ 高等学校	○ (安部・名湯・天然記念物)
○ 博物館	○ 港
○ 図書館	○ 港
○ 老人ホーム	○ 記念碑
○ 自然史資料館	○ 電波塔
○ 電波塔	○ 発電所・変電所

普通鉄道  
 支線  
 地下鉄  
 特殊鉄道  
 路面の鉄道  
 索道(リフト等)  
 建設中または運行休止中の鉄道

橋及び高架部  
 都府県界  
 北支線  
 市界  
 所定地区界  
 特定地区界  
 送電線

普通建物  
 屋上屋  
 高層建物  
 無蓋倉庫  
 タンク等

立休交差  
 橋  
 地下の水路  
 水門  
 遊歩道  
 遊歩道

湿地  
 砂れき地  
 干涸  
 土がけ  
 崩壊  
 岩がけ  
 岩  
 万年雪

1. 投影はユニバーサル横メルカトル図法、座標帯は第53帯、中央子午線は経緯135°
2. 図郭に付した短線は経緯度差1分ごとの目盛
3. 高さの基準は東京湾の平均海面
4. 等高線及び等深線の間隔は10メートル
5. 磁気偏角は西偏約7°30'
6. 図式は平成24年電子地形図25000図式

